

第1回(2001年度)佐治敬三賞は  
しのざきあやこ  
「篠崎史子 ハープの個展 VIII ～新たな領域を求めて～」および  
「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ～  
おおのかずし  
大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」が同時受賞

財団法人 サントリー音楽財団(理事長・堤剛)は、わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」の第1回(2001年度)受賞公演を「篠崎史子 ハープの個展VIII ～新たな領域を求めて～」および「Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」が同時受賞することに決定しました。

●選考経過

1. 応募のあった2001年実施公演について2002年1月14日(祝)東京・丸の内  
の東京會館において、選考委員9名により第一次選考を行った。
2. 引き続き3月13日(水)東京・千代田区紀尾井町のホテル・ニューオータニにおい  
て選考委員9名により最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第1回(2001年度)  
佐治敬三賞に「篠崎史子ハープの個展 VIII～新たな領域を求めて～」および「Just  
Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ～大野和士が描く新世紀の音楽  
絵巻」が選定され、同日理事会において正式に決定された。

●賞金総額は200万円。今回同時受賞につき各100万円が贈られる。

●選考委員は下記の9氏。

礒山 雅・岩井宏之・岡部真一郎・白石美雪・武田明倫  
丹羽正明・根岸一美・船山 隆・三宅幸夫

(敬称略・50音順)

●「篠崎史子ハープの個展Ⅷ ～新たな領域を求めて～」

<贈賞理由>

本公演は非常に刺激的で充実したコンサートで、全曲世界初演という画期的なプログラムであったが、会場にはほぼ満員の聴衆が集まり、同国の同時代の音楽に熱心に耳をかたむけ、ステージの上に呼び出された作曲家に大きな拍手を送っていた。篠崎の日本の現代音楽の新たな展開に対する貢献は、きわめて大きいといつてよいだろう。

今回のコンサートのために新作を作曲したのは、猿谷紀郎、三輪眞弘、石井眞木、権代敦彦、細川俊夫という世代も作風も異なる5人の日本の代表的な作曲家。しかしこれらの作曲家に共通しているのは、篠崎のハープの演奏に対する共感と尊敬の念である。<新たな領域を求めて>というコンサートのタイトルに示されているように、世界初演された5つの作品は、篠崎のハープによって、しなやかでしかも強靱な新しい音楽の領域を作り出す。これ以上理想的な作曲家と演奏家のコラボレーションは考えにくいだろう。

今回第8回目を迎える<ハープの個展>が開始されたのは、1972年10月のことで、林光や武満徹や一柳慧の作品がとりあげられた。篠崎はそれ以後30年以上にわたって、持続する高い志をもちつづけ、現代日本の音楽の作曲委嘱と初演という仕事を誠実にこなしてきた。第2回目のコンサートのために作曲された作品は、<納得できるだけの練習時間がもてない>との理由でキャンセルされたことさえある。第8回目のコンサートが聴衆の圧倒的な支持を得て成功したのは、このような長年にわたる誠実な努力の結果である。

<公演概要>

名称：「篠崎史子 ハープの個展Ⅷ ～新たな領域を求めて～」

日時：2001年10月19日（金） 19：00開演

会場：東京文化会館小ホール

曲目：猿谷 紀郎／滑らかな美牌～フルートとハープのための～（委嘱新作初演）

三輪 眞弘／総ての時間（委嘱新作初演）

石井 眞木／森の心象 作品120（委嘱新作初演）

権代 敦彦／涙の谷にあなたを慕う～ソプラノと2台ハープのための～

（委嘱新作初演）

細川 俊夫／回帰Ⅱ（委嘱新作初演）

出演：篠崎史子、（ハープ）、野々下由香里（ソプラノ）、小泉浩（フルート）

● 「Just Composed 2001 in Yokohama

～現代作曲家シリーズ～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」

<贈賞理由>

本公演は、横浜市文化振興財団の創立十周年を記念し、従来から行われてきた室内楽作品委嘱を中心としたシリーズをオーケストラのための企画として拡大・発展させたものである。ヨーロッパの名実共に第一線で活躍する作曲家たちの新旧の名作二曲に、日韓の若手の委嘱新作を組み合わせた絶妙の企画性に加え、それを優れた演奏により「音楽」として実感させた点を含め、プロジェクトとして、総合的に極めて高い水準を実現した点が高く評価された。

同時代音楽の大家であるハンガリー出身のリゲティ、及び、活発な創作活動を続けているイタリアのシャリーノの作品は、共に、室内管弦楽編成を用いたもので、それぞれ、よく熟れた書法を印象づけるものであった。一方、日韓の若手、武智由香及び李圭鳳は、共にヨーロッパを拠点としつつ、それぞれ独自の音楽観を明確に打ち出すことに先進する才能であるが、両者の委嘱新作は、どちらも、大管弦楽のパレットに、それぞれのフレッシュな感性の魅力を羽ばたかせ、新たな響きの世界を探究した力作であった。世代やバックグラウンド、そして、スタイルが異なる個々の作曲家の個性を鮮やかに描き出した一夜となった。

加えて、舞台転換の時間を利用し、指揮の大野和士自らがトークを行い、また、演奏される作品の一部を全曲に先立って例として聴かせ、特殊奏法の解説を行うなど、限られた専門家ばかりではなく、広く一般に同時代音楽の魅力を親しみやすく提示しようとする姿勢も、評価される。

さらに、何より重要なのは、大野の強いリーダーシップの下、神奈川フィル、村山卓洋らの音楽家たちが一丸となり、力一杯の演奏を聴かせたことである。優れた演奏なくして、音楽の真の魅力は実感され得ないことを改めて認識させたことも、大きな意義を持つところであると考えられる。

<公演概要>

名称 : 「Just Composed 2001 in Yokohama～現代作曲家シリーズ～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻」

日時 : 2001年8月31日(金) 19:00開演

会場 : 横浜みなとみらいホール 大ホール

曲目 : リゲティ/13人の奏者のための室内協奏曲

武智 由香/Au loin de L'Horizon—pour orchestre (委嘱作品・世界初演)

シャリーノ/レチタティーヴォ・オスクーロ (日本初演)\*

李 圭鳳/管弦楽のための「讃歌」(委嘱作品・世界初演)

出演 : 大野和士(指揮) 村山卓洋(ピアノ\*のみ) 神奈川フィルハーモニー管弦楽団

主催 : 財団法人 横浜市文化振興財団

以 上